

旧幡豆地区内陸用地の土地利用提案書

ア 応募者

提出日	2026年6月27日	
個人、法人の別	○個人	
お名前	(フリガナ) フジノ タカノリ 藤野 貴教 活動名：西尾ミライ新聞	
連絡先	(法人の場合) ご氏名	該当なし
	住所	愛知県西尾市東幡豆町深田58
	電話番号	8065342162
	メールアドレス	fujinotakanori@gmail.com

ご提供いただいた個人情報は、今回の目的の範囲内で適切に取り扱います。

イ 提案概要

地域活性化につながるポイントを記述してください。

提案名：西幡豆ミライの森

駅から歩ける、森・川・海をつなぐ市民共創型の里山利活用構想

旧幡豆地区内陸用地を、大規模造成や単一施設整備の対象ではなく、「調べる・守る・歩く・学ぶ・試す」ことを基本とした市民参加型の里山利活用モデルとして位置づけます。

西幡豆駅から約1kmというアクセスを生かし、名鉄西尾・蒲郡線の利用促進、幡豆地域への来訪機会、子ども・若者の環境学習、三河湾まで含めた流域理解につなげます。詳細は別紙1に記載します。

ウ 事業計画案

土地の特性、公益性、実現可能性を考慮した計画案を枠内に記載してください。イメージの補助となる参考図や写真がある場合など枠内に収まらない場合は別途添付してください。

事業計画案（要約）

対象地は西尾市西幡豆町地内、143.5ha（約133.9haが山林）、市街化調整区域、保安林が点在する土地であることを前提に、全面開発ではなく保全区域と活用区域を分けて段階的に扱います。

基本方針：1. 地質・水系等の事前確認 2. 保全区域と活用区域の区分 3. 西幡豆駅から歩ける回遊導線 4. 市民参加による小規模実証と検証

実施ステップ：調査と市民対話、駅から歩く回遊実験、森の開放日と里山学習、西幡豆ミライの森ナビ試作、検証と次期計画。詳細は別紙1に記載します。

別紙1 旧幡豆地区内陸用地の土地利活用提案書案

西幡豆ミライの森

駅から歩ける、森・川・海をつなぐ市民共創型の里山利活用構想

ウ 事業計画案

1. 基本方針

本提案では、旧幡豆地区内陸用地を「開発か保全か」の二択で捉えるのではなく、土地の特性を踏まえて、以下の4つの方針で段階的に活用することを提案します。

1つ目は、自然環境と地質・水系を事前に確認することです。対象地周辺にはマンガン鉱山の記録があり、過去の視察記録においても保安林解除やマンガン流出が課題として言及されています。そのため、大規模な造成や土砂移動を伴う事業の前に、地質、水質、土砂流出、河川、三河湾への影響を確認する必要があります。

2つ目は、全面開発ではなく、保全区域と活用区域を分けることです。山林、保安林、水源、急傾斜地、地質上注意が必要な場所は保全・調査区域とし、過去の採石場跡地や圃場整備跡地など、比較的平場が確保できる場所を小規模な利活用候補地として検討します。

3つ目は、西幡豆駅から歩ける場所として整えることです。自動車利用だけを前提とするのではなく、名鉄西尾・蒲郡線を利用して西幡豆駅で降り、駅から歩いて山へ入り、海やまちなかへ回遊できる導線を検討します。これにより、名鉄西尾・蒲郡線の利用促進と、幡豆地域全体の回遊性向上を図ります。

4つ目は、市民参加で小さく始め、検証しながら育てることです。最初から大規模施設を整備するのではなく、森の開放日、親子向け自然観察、地質・水系学習、里山整備体験、駅から歩く回遊実験などを行い、利用者の声、地域住民の意見、環境面の確認を踏まえながら、次の段階を判断します。

2. ゾーニング案

対象地全体を一体的に開発するのではなく、以下のように大きく4つの区域に分けて考えます。

A 保全・調査区域

山林、保安林、水源、急傾斜地、地質上注意が必要な区域を、保全・調査区域として位置づけます。ここでは大規模造成を行わず、地質、水質、植生、生物多様性、土砂流出の可能性を調査しながら、自然環境の保全を優先します。

B 里山学習・散策区域

安全に歩ける範囲を限定し、自然観察、歴史地理、地質、水の流れ、三河湾とのつながりを学べる散策ルートとして整備します。案内板やQRコードを設置し、スマートフォンで地域情報を読めるようにします。

C 小規模実証区域

過去の採石場跡地や圃場整備跡地など、比較的平場が確保できる場所を、小規模な実証利用の候補地とします。月1回程度の森の開放日、親子向けイベント、環境学習、里山整備体験、地域マルシェ、地質・水系に関する学習会などを試験的に実施します。

D 駅・海・まちなか回遊区域

西幡豆駅から対象地までの歩行導線、さらに寺部海岸、東幡豆、愛知こどもの国、三ヶ根山方面との回遊ルートを検討します。名鉄西尾・蒲郡線を利用して訪れる人が、山だけでなく海やまちなかにも立ち寄れる仕組みをつくります。

3. 実施ステップ

第1段階 調査と市民対話

まず、現地の基礎情報を整理します。地形、保安林、既存道路、過去の採石場跡地、圃場整備跡地、水系、地質、マンガン鉱山記録、土砂流出の可能性を確認します。

あわせて、地域住民、町内会、漁業関係者、農業関係者、名鉄沿線利用者、子育て世代、学校関係者、環境に関心のある市民、地域事業者などの声を聞く場を設けます。

この段階では、開発内容を決めるのではなく、判断に必要な情報と論点を整理することを目的とします。

第2段階 駅から歩く回遊実験

西幡豆駅を起点に、対象地まで歩く試験ルートを設定します。駅から山へ、山から海へ、海からまちなかへと回遊する半日ルートを設計し、参加者に実際に歩いてもらいます。

この実験により、歩行時間、安全性、案内表示、立ち寄り場所、名鉄利用との相性、地域店舗への波及効果を確認します。

第3段階 森の開放日と里山学習

月1回程度、限定された安全な範囲で「森の開放日」を実施します。内容は、自然観察、竹林整備、地質と水の学習、親子向け森歩き、三河湾とのつながりを学ぶプログラムなどです。

ここでは、施設整備よりも、人が森に関わる機会をつくることを重視します。

第4段階 西幡豆ミライの森ナビの試作

紙の地図、QRコード、Web、AIを組み合わせ、来訪者が「駅からどう歩くか」「どこに立ち寄れるか」「この水はどこへ流れるのか」「三河湾とどうつながるのか」を知ることができる案内システムを試作します。

市民や来訪者から寄せられたおすすめ情報や注意点を編集し、生活者目線の回遊マップとして更新していきます。

第5段階 検証と次期計画

一定期間の実証後、参加者数、名鉄利用者数、回遊ルート利用状況、住民意見、環境面の確認事項、維持管理上の課題を整理します。

その結果を踏まえ、継続すべき活動、拡張可能な活動、慎重に扱うべき区域、開発を避けるべき区域を整理し、次期計画につなげます。

4. 公益性

本提案は、特定事業者の収益化を目的とするものではありません。地域住民、子ども、若者、高齢者、来訪者、農業・漁業関係者、鉄道利用者など、多様な人が関わりながら、土地の未来を考える公共的な仕組みをつくることを目的とします。

特に、旧幡豆地区内陸用地を「山の中の未利用地」としてではなく、名鉄西尾・蒲郡線、幡豆の海、三河湾、三ヶ根山、愛知こどもの国、地域の暮らしとつながる場所として再編集することで、地域全体の価値を高めます。

また、地質や水系、三河湾への影響を事前に確認することで、将来の大規模開発に対する不安を減らし、住民が判断できる情報を共有することにもつながります。

5. 実現可能性

本提案は、初期段階で大規模な造成や建築を前提としないため、実現可能性が高いと考えます。

まずは、既存道路、既存地形、過去の採石場跡地や圃場整備跡地、安全に歩ける範囲を活用し、調査、対話、回遊実験、森の開放日など、小規模に始められる取り組みから実施します。

また、西尾ミライ新聞は、地域情報発信、市民参加型の編集活動、SNS発信、紙面制作、AIを活用した情報整理に取り組んでおり、市民の声を集め、わかりやすく可視化する役割を担うことができます。

専門的な地質・水質調査、環境調査、安全管理については、愛知県、西尾市、大学、専門家、地域団体と連携しながら進める必要があります。

6. 期待される効果

本提案により、以下の効果が期待されます。

1.**名鉄西尾・蒲郡線の利用促進**：西幡豆駅を起点とした回遊ルートをつくることで、電車で訪れる理由を増やします。

2.**幡豆地域の回遊性向上**：山、海、まちなか、地域店舗、愛知こどもの国、三ヶ根山をつなげることで、地域全体の滞在時間を伸ばします。

3.**子ども・若者の環境学習**：森、水、地質、三河湾のつながりを学ぶ場をつくります。

4.**住民参加と納得形成**：土地活用の前提条件を共有し、市民が自分の言葉で考える機会をつくります。

5.**三河湾まで含めた流域理解**：山の水が川を通り海へつながることを体験的に理解できる場にします。

6.**将来開発のリスク低減**：地質、水質、保安林、維持管理、撤退条件を事前に確認することで、後戻りできない大規模開発を避けます。

7. 提案のまとめ

旧幡豆地区内陸用地は、単なる未利用地ではありません。山であり、水を生む場所であり、名鉄西尾・蒲郡線と近接し、三河湾や幡豆の暮らしともつながる場所です。

この土地を、すぐに大きく開発するのではなく、まず調べ、守り、歩き、学び、小さく試す。その過程を市民に開き、地域の未来を考えるきっかけにする。

本提案は、旧幡豆地区内陸用地を「西幡豆ミライの森」として、市民共創型の里山利活用モデルへ育てていくことを提案するものです。